

- 問1 第一次世界大戦が始まった1914年から終結する1918年にかけて、日本の経済状況は大きく変化しました。この時期の貿易額の推移において、1913年時点と1916年時点の状態を比較して説明したものととして正しいものはどれですか。 (2017年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 1913年には輸入額が輸出額を上回る輸入超過であったが、1916年には輸出額が10億円を超えて輸入額を上回ようになった。 | 2. 1913年には輸出額が輸入額を上回る輸出超過であったが、1916年には戦争の影響による原料高騰で輸入額が輸出額を逆転した。 | 3. 1913年も1916年も輸出額が10億円を大きく下回っており、日本が本格的に国際貿易に参入したのは大戦終結後であった。 | 4. 1913年も1916年も一貫して輸入額が輸出額を上回っており、国内の産業化が遅れていることを示していた。 |
|---|--|--|---|
- 問2 1970年代の日本の動向について述べた文です。佐藤栄作内閣のもとで「持たず、作らず、持ち込ませず」という非核三原則が国会で決議された後、1972年にアメリカから日本へと行政権が戻された出来事を何といいますか。また、その出来事を記念して1975年に沖縄県で開催された行事の名称として、正しい組み合わせを選びなさい。 (2022年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------|---------------------------|------------------------------------|-----------------------------|
| 1. 沖縄の独立が承認され、国際海洋博覧会が開催された | 2. 沖縄返還が行われ、国際海洋博覧会が開催された | 3. 沖縄の行政権が日本からアメリカへ移行し、復興記念式典が行われた | 4. 沖縄が日本へ割譲され、大阪万国博覧会が開催された |
|-----------------------------|---------------------------|------------------------------------|-----------------------------|
- 問3 日本国憲法第14条に定められた「法の下での平等」の考え方にに基づき、現代の日本における選挙制度の課題を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2021年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 一票の価値に格差が生じることは、社会権における最低限度の生活を保障する権利を侵害すると考えられている。 | 2. 選挙区ごとの有権者数に大きな開きがあり、一票の影響力に格差があることは、憲法の原則に反する状態とされる場合がある。 | 3. 人口の少ない地域の代表者を確保するために一票の重みを大きくすることは、国民の参政権を拡大するための義務である。 | 4. 特定の身分の人の投票権を制限することは、経済的自由の観点から禁止されている。 |
|--|--|--|---|
- 問4 選挙における人々の政治参加の度合いを分析する際、単に「投票しなかった人の数」という実数を見るのではなく、有権者数と比較した「投票率」という指標を用いることが重要とされる理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 有権者数に対する得票数の合計を算出することで、当選した議員が獲得した票の重みが全国で均等であるかどうかを判断できるから。 | 2. 各年代によって集団全体の人数（有権者数）が異なるため、割合で比較することで、その集団がどの程度政治に関心を持っているかを正確に把握できるから。 | 3. 投票しなかった人の割合が高い年代ほど、将来的にその年代の有権者数が増加するという人口動態の法則が統計的に明らかになっているから。 | 4. 投票率は、男女別の投票率の差や立候補者数の増減を計算に含めることで、選挙結果の正当性を証明するための数値として使われるから。 |
|---|--|---|---|
- 問5 地球儀において、東南アジアのタイ付近に位置する地点から、地球の中心を通過してちょうど反対側に到達する地点が含まれる大陸はどこか、次の中から選びなさい。 (2022年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|--------------|-----------|-----------|
| 1. アフリカ州 | 2. オーストラリア大陸 | 3. 南アメリカ州 | 4. 北アメリカ州 |
|----------|--------------|-----------|-----------|
- 問6 イタリアなどの地中海沿岸に見られる「地中海性気候」の雨温図（気温と降水量のグラフ）の特徴として、正しい説明はどれか。 (2018年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 夏季にあたる7月頃に湿った季節風の影響を強く受け、降水量が一年で最も多くなっている。 | 2. 一年を通して気温の変化がほとんどなく、毎月一定以上の激しい降水が見られる。 | 3. 冬季にあたる1月頃に気温が氷点下まで下がり、降水量が夏季よりも大幅に増加している。 | 4. 夏季にあたる7月頃の気温が高く、その時期の降水量が極端に少なくなっている。 |
|---|--|--|--|
- 問7 ブラジルの発電エネルギー源別の統計において、発電量全体の約7割から8割という極めて高い割合を占めている発電形式として正しいものはどれですか。 (2019年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. 火力発電 | 2. 水力発電 | 3. 原子力発電 | 4. 地熱発電 |
|---------|---------|----------|---------|
- 問8 若年層においてインターネットの利用率が高い一方で新聞の利用率が極めて低いという、情報化社会におけるメディア利用の現状について、社会的な課題の観点から述べたものととして最も適切なものはどれですか。 (2018年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 全世代でインターネットが普及したことにより、情報の真偽を確かめるメディアリテラシーの重要性は低下している。 | 2. 10代の新聞利用率が低いため、若年層向けの情報はすべてラジオ放送を通じて提供することが最も効率的である。 | 3. インターネットは新聞に比べて情報の拡散速度が遅いため、災害時の緊急情報収集には新聞を優先すべきである。 | 4. 個人の関心に合わせた情報のみが表示されるインターネットの特性により、自分と異なる意見に触れる機会が減る懸念がある。 |
|--|---|--|--|
- 問9 国際社会における「主権」と「国際法」の在り方について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 近代の国際社会では、特定の強力な国家が定めた国内法が他のすべての国家を支配するルールとなっており、これを国際法という。 | 2. 主権を持つ独立国家であれば、他国との合意である条約を守る義務はなく、常に自国の利益のみを優先して行動することが国際法で認められている。 | 3. 主権とは、自国の政治や外交の在り方を他国からの干渉を受けずに自ら決定できる権利のことであり、国家間には国際法という共通の決まりが存在する。 | 4. 主権とは、国民が選挙を通じて政治に参加する権利のことであり、国内の秩序を維持するための決まりを国際法と呼ぶ。 |
|--|--|--|---|
- 問10 日清戦争前の国際関係を描いたビゴーの風刺画では、日本と清が朝鮮半島という利害をめぐって対立し、その背後でロシアが機会をうかがっている状況が示されています。この時期の背景として最も適切な説明はどれですか。 (2018年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 日本とロシアが満洲の利害をめぐって軍事同盟を結び、清に対して共同で圧力をかけていた。 | 2. 清が台湾を完全に支配下に置いたことに対し、日本とロシアが抗議して朝鮮半島の独立を支援していた。 | 3. 日本が欧米列強と協力して、ロシアによる朝鮮半島の占領を阻止するために清と協力体制を築いていた。 | 4. 日本と清が朝鮮半島への影響力を強めようと対立しており、さらにロシアが南下政策によってこの地域への進出を狙っていた。 |
|---|--|--|--|
- 問11 世界を構成する海洋のうち、太平洋やインド洋とともに「世界三大洋」の一つに数えられる大洋があります。この大洋は南北アメリカ大陸とヨーロッパ・アフリカ大陸の間に位置しており、その領域内を本初子午線が通っています。この大洋の名称として適切なものを選びなさい。 (2022年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|--------|--------|
| 1. インド洋 | 2. 大西洋 | 3. 北極海 | 4. 太平洋 |
|---------|--------|--------|--------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 1913年には輸入額が輸出額を上回る輸入超過であったが、1916年には輸出額が10億円を超えて輸入額を上回るようになった。	第一次世界大戦前、日本は慢性的な輸入超過の状態にありましたが、大戦が始まると輸出額が飛躍的に増加しました。統計によれば、1916年には輸出額が輸入額を大きく上回り、10億円を突破する規模にまで成長しました。この好景気（大戦景気）により、日本は債務国から債権国へと転換し、経済的な地位を向上させました。
問2	答え 2 沖縄返還が行われ、国際海洋博覧会が開催された	第二次世界大戦後、アメリカの施政権下に置かれていた沖縄は、1972年に日本への返還（沖縄返還）が実現しました。この返還を記念し、沖縄の振興や国内外への復帰のアピールを目的として、1975年に「沖縄国際海洋博覧会」が開催されました。選択肢にある「独立」や「割譲」は、行政権が日本に戻った事実とは異なる表現です。
問3	答え 2 選挙区ごとの有権者数に大きな開きがあり、一票の影響力に格差があることは、憲法の原則に反する状態とされる場合がある。	例えば、有権者が少ない地域では1票の影響力が相対的に強くなり、有権者が多い都市部では弱くなるという「一票の価値」の格差が問題となっています。これは政治参加において国民が平等に扱われていない可能性を示唆するため、法の下での平等の観点から「違憲状態」などの判決が出されることがあります。
問4	答え 2 各年代によって集団全体の人数（有権者数）が異なるため、割合で比較することで、その集団がどの程度政治に関心を持っているかを正確に把握できるから。	年代別の政治への関心や行動を分析する場合、各年代の人口（有権者数）が異なることに注意しなければなりません。例えば、ある年代の「投票しなかった人の数」が多くても、その年代の有権者数自体が非常に多ければ、投票率そのものは高いという場合もあり得ます。このように、集団全体の母数である有権者数と比較して「投票率」を算出することで、人口規模の差に左右されずに、各世代の政治参加の意欲を正しく比較することが可能になります。
問5	答え 3 南アメリカ州	地球上の任意の点から、地球の中心を通して結ばれる真反対の地点を「対蹠点」と呼びます。東南アジアの対蹠点は南アメリカ大陸の周辺に位置しており、そこにはブラジルやアルゼンチンといった国々が含まれます。世界地図上では、東南アジアから最も遠い位置にある大陸として把握されます。
問6	答え 4 夏季にあたる7月頃の気温が高く、その時期の降水量が極端に少なくなっている。	地中海性気候は、夏に「亜熱帯高圧帯」と呼ばれる高気圧の圏内に入るため、気温が上がる一方で雨がほとんど降らず乾燥するのが最大の特徴です。この時期の乾燥に耐えるため、オリーブやぶどうなどの硬葉樹の栽培が発達しています。逆に冬は、温帯低気圧や偏西風の影響を受けて一定の雨が降ります。
問7	答え 2 水力発電	ブラジルは、アマゾン川などの広大な河川や豊かな降水量といった自然条件を背景に、水資源を電力供給の柱として活用しています。世界的に見ても、電力供給における再生可能エネルギーの比率が非常に高い国として知られており、二酸化炭素の排出を抑えたエネルギー政策が特徴です。
問8	答え 4 個人の関心に合わせた情報のみが表示されるインターネットの特性により、自分と異なる意見に触れる機会が減る懸念がある。	若年層を中心にインターネットが主な情報源となる中で、アルゴリズムによって自分の興味がある情報ばかりが提供される「フィルターバブル」などの現象が課題となっています。新聞のように一覧性があり、多角的な情報を提示するメディアの利用が減ることで、特定の考え方に偏ったり、社会全体の共通の話題を把握しにくくなったりするリスクが生じるため、多角的に情報を精査するメディアリテラシーが求められます。
問9	答え 3 主権とは、自国の政治や外交の在り方を他国からの干渉を受けずに自ら決定できる権利のことであり、国家間には国際法という共通の決まりが存在する。	近代以降の国際社会は、対等な主権を持つ国家によって構成されています。各国家は、自国の領域内での統治権や、他国に依存せず外交を行う独立権（主権）を持っており、それらの国家が共存するために、条約や国際的な慣習に基づく国際法が重要な役割を果たしています。主権は国民の参政権とは区別される概念であり、また国際法は特定の国の国内法とも異なるものです。
問10	答え 4 日本と清が朝鮮半島への影響力を強めようと対立しており、さらにロシアが南下政策によってこの地域への進出を狙っていた。	19世紀末の東アジアでは、近代化を進めて朝鮮半島への進出を図る日本と、従来の宗主国としての地位を維持しようとする清との間で対立が深まっていました。また、不凍港を求めて南下政策を推進するロシアもこの地域に強い関心を持っていました。こうした三国の利害が衝突する複雑な状況が、日清戦争の勃発へとつながっていきました。
問11	答え 2 大西洋	世界三大洋とは、太平洋、大西洋、インド洋の3つの大きな海洋を指します。このうち、イギリスのロンドンを通る本初子午線（経度0度）が南北に貫き、西側に南北アメリカ大陸、東側にヨーロッパ大陸とアフリカ大陸を望む位置にあるのは大西洋です。